

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook
第2戦 SUGO スーパー耐久3時間レース

2021年4月17日(土)~18日(日)
スポーツランドSUGO(宮城県)
入場者数: 4月17日 2,100人
4月18日 3,200人

ドライでの真っ向勝負でチーム一丸の勝利 KTMS GR YARIS が怒濤の開幕2連勝!



FREE PRACTICE

2021年、KTMS GR YARIS を投入し、スーパー耐久シリーズのST-2クラスに戦いの場を移したKTMS。記念すべき開幕戦となった第1戦ツインリンクもてぎは、強い雨のなか野中誠太、平良響、そして翁長実希という3人の若きドライバーたちが存分にポテンシャルを發揮し、見事2020年も成し得なかったクラス優勝を成し遂げた。

その勢いのまま迎えた第2戦の舞台は、2020年にKTMSのデビュー戦の舞台となった宮城県のスポーツランドSUGO。前年は専有走行でのクラッシュにより悔しい思いをしながらも、チームとしての一体感を高めたラウンドだ。1年でたくましく成長した3人は、レー

スウィークに先立つ4月14日(水)のスポーツ走行枠からSUGOの習熟を開始したが、この日平良のドライブ中に、エンジンの不調が発生。エンジン交換を行うことになった。もちろん交換せずに済むのがベストだが、木曜の本格的な走行の前にトラブルが発覚したのは不幸中の幸いだった。

4月15日(木)~16日(金)のKTMS GR YARISはエンジンも好調。また今回、足回りではスプリングを変更するなど改良を施しており、そのフィーリングも非常に良好。ポテンシャルに手ごたえを感じていた。

予選日を前にした4月16日(金)は、3日間の走行の締めくくり。午前には野中から平良、



そして翁長と交代しつつ周回を重ね、さらに午後は野中、平良、翁長と代わり、午後は平良がマークした1分33秒776で首位に。しっかりとKTMS GR YARISのフィーリングを確認し、トラブルなく金曜を終えた。

4月16日 スーパー耐久 STEL 専有 1st 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'32.192
2	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	1'32.317
3	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	1'32.643
4	225	KTMS GR YARIS	1'33.265
5	743	Honda R&D Challenge FK8	1'34.054

4月16日 スーパー耐久 STEL 専有 2nd 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	1'31.776
2	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	1'31.812
3	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'33.012
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	1'33.220
5	743	Honda R&D Challenge FK8	1'33.749

QUALIFY

迎えた4月17日(土)の予選日は早朝から雨が降り出し、午前8時30分から行われたフリー走行はウエットに。KTMS GR YARISはこの走行で状況を確認すると、午後0時30分からスタートした公式予選に臨んだ。

まずはAドライバーの野中からアタックに臨んでいくが、グループ2は台数も多く、なかなかアタックのためのスペースを見つけられず、さらに内圧が高すぎ、フロントタイヤにダメ

ジを負ってしまう。終わってみれば、1分43秒078というタイムで、4番手という結果となった。続くBドライバー予選の平良は、雨量を見ながら内圧を調整しアタック。1分41秒642をマークする。ただ、クラス首位がスリックタイヤを履くチャレンジを行ったことから2番手に。合算ではクラス3番手という結果となった。Cドライバー予選では、翁長がウエットタイヤでアタック。クラス4番手につけた。



4月17日 スーパー耐久 フリー走行

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	1'42.441
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'43.691
3	225	KTMS GR YARIS	1'46.142
4	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	1'46.463
5	743	Honda R&D Challenge Fk8	1'47.019

4月17日 スーパー耐久 公式予選 公式予選 AB 総合正式結果

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	3'22.489
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	3'24.355
3	225	KTMS GR YARIS	3'24.720
4	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	3'26.269
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	3'26.636

RACE



迎えた4月18日(日)の決勝日。前日の午後は雨が一時小康状態となっていたが、夜には強い雨が降っていたスポーツランド SUGO。ただその雨も夜のうちに止み、決勝日の朝は快晴。蔵王連山が顔をみせるなか、午前8時45分からグループ2の決勝レースを迎えた。

この日は非常に風が強く、コースイン時こそウエット宣言が出されていたが、急速に路面は乾き、スタート時はレコードライン上はドライ。KTMS GR YARISは野中誠太をスタートドライバーに据え、午前8時40分からフォーメーションラップが行われた決勝に臨んだ。

序盤、野中はST-3クラスのマシンたちと競り合いながら前を行く#59 WRX STIを追っていくが、やや離されていく展開。それでもきっちりラップを重ねていく。

そんななか、開始から43分ほどというところで、ST-5クラスの車両がSPコーナーでスポンジバリアにクラッシュしてしまったことが

ら、レースはセーフティカーが導入される。ピットインタイミングには絶好機であり、KTMSはタイミングを計りつつ、28周を終えピットへ。野中から平良響に交代する。上位陣はほとんどがピットインを行っており、ピットタイミングによって順位の変動があったが、戻ってみるとKTMS GR YARISの順位は4番手。前には#743 シビックがつけていた。

セーフティカーラン中に、宮城県沖を震源とする震度3の地震があったが、レースには影響を与えず9時36分にレースは再開する。リスタート後、平良は少しずつ#743 シビックとのギャップを詰めていくと、45周目にこれをオーバーテイク。自身がスタート前に「表彰台圏内には入りたい」と語っていたとおり、3番手に浮上することに成功した。

その後、レースはアクシデント等は起きずアンダーグリーンのまま進んでいく。平良は上位との差を少しずつ縮めていくと、レースが2時間ほどを迎えてきたところでピットイン。ここで平良から翁長実希に交代するが、平良と翁長は「リヤタイヤのグリップが大丈夫なら、二輪交換を提案しよう」と相談をしており、平良は事前の打ち合わせどおり、チームに「フロントのみの二輪交換で行きましょう！」と告げる。

これが奏功し、直前には#59 WRX STI、さらに翌周には#7 ランサーがピットインするも、二輪交換でピットアウトしたKTMS GR

YARISは大きなマージンを稼ぎ出し、その後79周を終えレースの多くをリードしていた#32 GR YARISがピットインを行うと、その間に翁長はメインストレートを通り。これで一気にトップに浮上することに成功した。

この週末、野中と平良と同様に多くのラップを重ねていた翁長のペースは、二輪交換にも関わらず速い。コクピットの翁長は、逆にリヤをうまく滑らせながら走ることでKTMS GR YARISをハイペースで走らせていたのだ。

終盤までペースを落とさなかった翁長は、110周を走りきると、ライバルたちをもラップダウンにする勢いそのままトップチェッカー！KTMS GR YARISは雨の第1戦に続き、開幕2連勝という結果を残してみせた。

これでももちろんランキングも首位。そして野中、平良、翁長の3人のドライバーたち、KTMSのチーム全体にとっても、大きな成長を実感する勝利となった。



DRIVER'S VOICE



野中 誠太 SEITA NONAKA

序盤はタイヤやクルマとの相性が想像とは違う方になっていました。それもありセーフティカーのときにピットインしたのですが、そこから良い流れを作ることができたので良かったです。正直、僕はスタートも失敗したので反省することも多いのですが、とはいえこうして勝つことができましたし、学ぶこともたくさんあったので、次戦の富士 24 時間で改善できればと思います。また今回はしっかり戦って勝てたので喜びもひとしおですし、チームも GR YARIS への理解が深まっています。富士の優勝という目標に向け、良い流れにのっていければと思います。



平良 響 HIBIKI TAIRA

勝ちました！ タイヤがなかなかもたないのが以前からの課題だったので、タイヤをもたせながらタイムを落とさないように……ということを感じながら走りました。リヤタイヤはもちそうだったので、僕からピットにフロントのみの交換を提案し、それがうまくいって連勝することができました。昨年、このSUGOで苦しい週末だったからこそ、チームの連帯感が生まれたと思いますし、この結果に繋がったのだと思います。次戦の富士はウエイトも厳しくなりますが、長いレースですし、しっかりと高いペースを保ちながら、なんとか上位にいければと思っています。



翁長 実希 MIKI ONAGA

すごく嬉しいです！ 昨年のSUGOでは、本当にチームに迷惑をかけてしまったのですが、皆さんが支えてくださいましたし、その経験を無駄にせず1年戦い、その感謝を結果にして残したいと戦ってきた結果、こうして優勝することができて本当に嬉しいです。私のスタントではフロントのみの交換にしましたが、チームや平良と相談し臨んだ戦略で、それがすごくうまくいきました。あまりフロントに負担をかけず走れ、良かったです。もちろんライバルの皆さんの速さにはまだ及ばないですが、今回みんなで一丸となり、こうして結果を残すことができて良かったです。

4月18日 スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Gap	Total Time
1	225	KTMS GR YARIS	110		3h01'34.584
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	110	39.650	3h02'14.234
3	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	109	1Lap	3h01'26.023
4	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	109	1Lap	3h01'27.263
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	109	1Lap	3h01'41.878
6	743	Honda R&D Challenge FK8	108	2Laps	3h01'29.464

